

## 令和2年6月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	2	議席 番号	4	氏名	辻 村 岳 瑠 議員	1 / 2
発 言 項 目				要 旨		答 弁 者
1	新型コロナウイルス感染症の第2波の対策について			<p>今回の感染症第1波における弱者は、高齢者・妊婦・基礎疾患のある方でした。そして、高齢者・基礎疾患のある方にとって、密な環境は高齢者施設等です。このことから、第2波に備えて、高齢者施設等に感染防止対策を講じることが重要だと考えますが、市の考えを伺います。</p> <p>(1) 施設等で感染防止対策に必要なことは、円滑な意思疎通・情報共有の密です。行政、医療関係者、事業者、利用者、高齢者施設等に聞き取りをする中で見えてきた第2波に必要な備えについて、以下市の考えを伺います。</p> <p>① 仮説を立て検証する。 今回はなぜ高齢者施設等で感染症を予防できたのか。目に見えないものに対して、仮説検証は有効です。どんな仮説が考えられるのか伺います。</p> <p>② 代替サービスの確保について。 もし通所系サービスに休業要請が出たとき、訪問サービスの質・量・効率性はどのくらい対応できるのか伺います。</p> <p>③ 施設の面会について。 難しい状況が続き、施設としてもご家族への協力をお願いするしかない状況です。 オンライン面会の取組を市として後押しできないでしょうか。市の考えを伺います。</p>		市長 関係部長
2	第2波の自粛生活について			<p>100年に一度の感染症の世界的大流行により、突然活動を自粛する中、社会とのつながり、家庭の在り方を考え直す機会でした。 第2波による自粛生活に必要な備えは何でしょうか。市の考えを伺います。</p> <p>(1) クラウドファンディングによる社会的役割の創出について。 新型コロナウイルス感染症による自粛生活は、出口の見えない状況です。私たちの社会的役割の一つである仕事と雇用を、突然失ってしまう方々も至るところでいます。その中、様々な方面で支援制度があります。市としてはさらに、クラウドファンディングによる社会的役割を創出できる取組の必要性を感じます。そのことが生活不安の助けになればと考えます。市の考えを伺います。</p> <p>(2) 小・中学生の休業中の家庭学習について。 突然の休業と自粛、予測のつかない休み、不安な家庭環境で多くの児童生徒が家庭学習に取り組まれたと思います。また、新しい学習指導要領の「生きる力」を実践から学ぶ絶好の家庭学習の機会でもあったとも思います。 今回出された課題の成果、次回休業中に出される課題について伺います。</p>		市長 教育長 関係部長

発言 順序	2	議席 番号	4	氏名	辻 村 岳 瑠 議員	2 / 2
発 言 項 目		要 旨				答 弁 者
3	新型コロナウイルス感染症収束後、何をもって成果とするのか。～ゴール設定を人口増に～	<p>100年に一度の感染症の世界的大流行。非常時は常識だけでは乗り切れない、時には非常識な考えも必要だと思います。大きく社会に影響を与えた反動を、少しでも良い方向に向ける施策の必要性を感じます。</p> <p>効率よく稼ぐために、人、モノ、金を都心に集中させることのリスクが今回の感染症で明らかになり、これからは都心から地方へ人口の逆流が起きると想像します。他市が慎重になっている今、反転攻勢の意識で人口を呼び込む施策の必要性を感じます。市の考えを伺います。</p> <p>(1) 市独自の感染症対策をアピール、人口を呼び込む施策について。</p> <p>① 「目鼻口を直接触らない」という生活実践を市の新しい生活様式に、さらに付け加えていただくことはできないでしょうか。また、人との接触8割減から、感染機会8割減など、市独自の感染症対策について市の考えを伺います。</p> <p>② 現在の移住・定住ポータルサイトを、コロナ期ならではのポータルサイトに変更する考えはあるのか伺います。</p> <p>③ 交流人口から関係人口化へ。コロナ期の観光ニーズ、マイクロツーリズム市場を狙ったときの富士宮のさらなる魅力は何か伺います。</p>				市 長 関係部長